

二〇一七年六月三日、教皇フランシスコの若き日を描いた映画「ローマ法王になる日まで」が日本で公開され、(七月末現在全国で公開中)宗教を問わず多くの人々に感動を与えています。今回この映画についての一文を寄せて下さったホアン・アイダル神父は、ブエノスアイレスのイエズス会神学院で、当時院長だったベルゴリオ神父に指導を受けた教え子の一人です。



上智大学神学部教授
ホアン・アイダル
Juan Haidar, sj

映画「ローマ法王になる日まで」

遠藤周作によると、聖人について小説を書くのは不可能なのだそうです。なぜなら、聖人の人生にはドラマチックな出来事が少ないからです。しかし、選出されてから四年しか経っていない教皇フランシスコについて、既に三本もの映画が作られているということからすると、教皇フランシスコは聖人ではないか、あるいは遠藤周作の説が間違っていたか、そのいずれかもしか考えられませんか。教皇フランシスコを尊敬している私としては、おそらく遠藤周作の方が間違っていたのだと思っています。

「ローマ法王になる日まで」(オリジナルタイトルは Chiamatemi Francesco 「フランシスコと呼ん

てください)はシンプルですが、とても良い映画で、見る価値は十分にあります。ストーリーは四十歳後のベルゴリオ神父(教皇フランシスコ)の生活を中心に描かれています(当時一九七三〜一九七九年)。ベルゴリオ神父はイエズス会アルゼンチン管区の若い管区長でしたが、アルゼンチンは歴史上最も厳しい時代の一つである大変な時期でした。それは、軍事政権(一九七六〜一九八二年)と政権を倒そうとした武装グループとの戦いの時代であり、一般市民はいうまでもなく、シスター、神父、司教でさえ、問題に巻き込まれて、誘拐されたり、殺されたりしていた暗黒の時代です。

この映画の最大の見どころは、三五〜四十年前アルゼンチンの軍事独裁下でどんなことが起こっていたのかを正確に描写すると同時に、複雑な状況に置かれたベルゴリオ神父の困難を極めた仕事を正確に描いている点だと思えます。その時代を生き、ベルゴリオ神父のことも身近で知っている私は、映画のいくつもの場面で感動しました。映画を見ることによって、アルゼンチンの歴史を学べるということもあります。それよりも大切なのは、今の教皇フランシスコの考え方―赦しと慈しみの強調、暴力への批判、※迫害

されている人たちについての話などへの理解が深まるということだと思います。しかしながらこの映画は、残念なところが一点。来日したルケッティ監督は、映画は実はもつと長かったのだが、映



写真・古郡美はる

画館の上映用にカットした、と話してくれました。そのせいも、今上映されている映画は物語の進行が少し早く、アルゼンチンの現代史を全く知らない人には分かりにくいところがあるという気がしますが、ですから、予備知識として少し歴史的な背景を勉強してから映画を見る方がいいかもしれません。

※二〇一六年聖ステファノの祝日、正午の祈りの中で教皇フランシスコは現代の殉教者の数は、初期キリスト教時代よりも多いという現実に加え、困難や危険にも関わらず、差別なくすべての人に奉仕しながら「真理における愛」を証する兄弟姉妹たちに、愛情と祈りと涙をもって寄り添うよう、すべての信者を招かれた。

「迫害されるキリスト者たちに寄添う」教皇、殉教者聖ステファノの祝日に(バチカン放送局 2016.12.26 付記事)より

■掲示板(特設コーナー案内)

✿日本・バチカン国交樹立七十五周年にあたり、図書館入り口に、関連資料と古郡美はるさんの写真を展示しています。

また教皇フランシスコとバチカンに関する図書をコーナーに揃えています。

✿七月十八日に帰天された聖路加国際病院名誉院長日野原重明先生への追悼の意を込め、コーナーを設けています。日野原先生が私たちに残された力強いメッセージ、いのちや生き方について書かれた本をぜひ手に取ってご覧ください。

✿世界の飢餓や難民の支援活動に尽力された評論家の犬養道子さんが、七月二十四日に帰天されました。犬養さんが著作を通して私たちに問いかけて来た南北問題は今…。ほぼ全著作をご覧ください。

✿宗教改革五百年の今年には宗派を超えて様々な行事が行なわれ、関連書籍も次々と出版されています。最近出版された本を中心に宗教改革に関する本をご案内いたします。

☞ 利用者の声

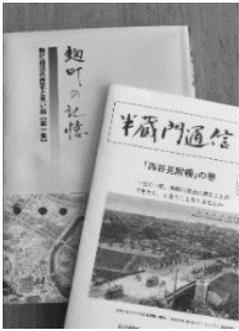
聖三木図書館を愛用して五十八年

徳光 祝治

私が聖三木図書館をはじめて知ったのは昭和三十四年、十九才のこと。上智大学の信仰入門講座に通い始めてこの図書館を知った。その頃は上智会館二階の静寂でかわいい図書館であった。信仰書を読んだ後の充実した心地よさは他の図書館にない魅力であった。今は蔵書数も面積も格段に増えた。交通の利便性がよく、開架式のため教員関係書を手取り早く読める点で希少性のある図書館である。利用者がもっとあってもよさそうなのにと勿体なく思う。信者にとり憩いの場所と思われるし、周辺地域の人にも参考になる本が多いはずである。

私は周辺地域の昔話を介して親睦する「結びの会」を、千代田区観光協会などの後押しで月一回開催しており、九月からは会場を岐部ホール三階に移す。聖三木図書館には三年前に「麹町の記憶第一集」を寄贈しているが、来年には第二集をと思っている。上智大学と教会があるこの二万坪の土地に、江戸から今日にかけてどのような人々がいたか、どのようなことをしたかを調査してきた成果である。

月日の速さを改めて感じるが、聖三木はずっと私のベースキャンプである。



徳光さんへのご連絡は
s.tokumitsu@mountain.
ocn.ne.jp まで

***** 今日聖三木で読まれている本・新しい本 *****

イグナチオ・デ・ロヨラの霊的日記 ホアン・カトレット編
イエスとブツダ：いのちに帰る テイク・ナット・ハン著
言葉の贈り物 若松英輔著
どんな時でも人は笑顔になれる 渡辺和子著
宗教ってなんだろう？ 島菌進著
聖書人物おもしろ図鑑：新約編 中野実監修
ほんとうの自分になるために 片柳弘史著
森の静けさの中で：カルメルの伝統における祈り
メアリ・マコーマック著
キリストへの道 岩島忠彦著
パウロ：十字架の使徒 青野太潮著
遠藤周作と『沈黙』を語る 遠藤周作記念館企画
人はみな、オンリーワン：だれも幸せになる権利がある 森一弘著
イエス・キリストを思い起こしてください：現代の信仰問題への応答として ラニエロ・カンタラメッサ著

人生の踏絵 遠藤周作著
今日すべきことを精一杯！ 日野原重明著
魂深きひとびと 香田芳樹著
キリスト教は役にたつか 来住英俊著
聖書と歎異抄 五木寛之／本田哲郎著
神父さま、なぜ日本に？ 女子パウロ会編
出会いの幸福 曾野綾子著
殉教とこころびを越えて 粕谷甲一著

宗教改革関連

マルティン・ルター：エキュメニズムの視点から W. カスパー著
『キリスト者の自由』を読む ルター研究所編著
プロテスタンティズム：宗教改革から現代政治まで 深井智朗著
なぜローマ法王は世界を動かせるのか 徳安茂著
使徒パウロは何を語ったのか N・T・ライト著

お知らせ

☼ 夏期休館

八月二十二日(火)～八月三十一日(木)まで休館いたします。休館中の返却は入り口右手の返却口にお願いいたします。

☼ 夏期長期貸出

八月一日(火)より長期貸出を始めます。

☼ 館報「みき」は聖三木図書館内で自由に持ちいただけます。また、当館ホームページでは「みき」とご好評をいただいております。「ゆるし」各号をご覧いただけます。

友の会からのお願い

☼ 聖三木図書館友の会発行の聖三木図書館利用カード更新手続きと会費の納入はカウンターで受け付けております。利用カードの有効期間は一年です。

年会費 一般 二〇〇〇円
学生 一〇〇〇円

☼ 年会費をお振込みで納入される場合
みずほ銀行四谷支店 普通預金

口座番号 115848

口座名義 イエズスカイセイミキトショカントモノカイ

(*お名前の前に会員番号をお書き下さい。)

☼ 新規入会の手続きは随時カウンターで受け付けます。住所確認のため、免許証・保険証をご提示ください。

聖三木図書館報『みき』第3号

イエズス会聖三木図書館

〒102-0083 東京都千代田区麹町6-5-1
岐部ホール2F TEL: 03-3262-0364
URL: http://www.jesuits.or.jp/~j_semikibun/